

## 自転車の事故防止

(警視庁ホームページ及び「交通安全ジャーナル」2009年8月号から)

はじめに

警視庁ホームページと(一財)東京都交通安全協会発行「交通安全ジャーナル」2009年8月号に掲載された記事の概要を紹介し、自転車事故の防止について考える。

### ■ 東京都及び全国の交通事故死者数構成比率 (警視庁ホームページから)

警視庁のデータ (右表)

を見ると、東京都は全国に比べて交通事故死者のうち、自転車の構成率が高い。二輪車に至っては東京都の構成率が著しく高い。

いっぽう、地下鉄などの交通機関が発達しているため四輪車にはあまり乗らないからか、四輪車の構成率は低い。

平成 29 年交通事故死者数と構成率

区分	東京都		全 国	
	死者数(人)	構成率(%)	死者数(人)	構成率(%)
自転車	28	17.1	481	13.0
二輪車	41	25.0	632	17.1
四輪車	17	10.4	1,221	33.1
歩行者	76	46.3	1,346	36.4
その他	2	1.2	14	0.4
合 計	164	100.0	3,694	100.0

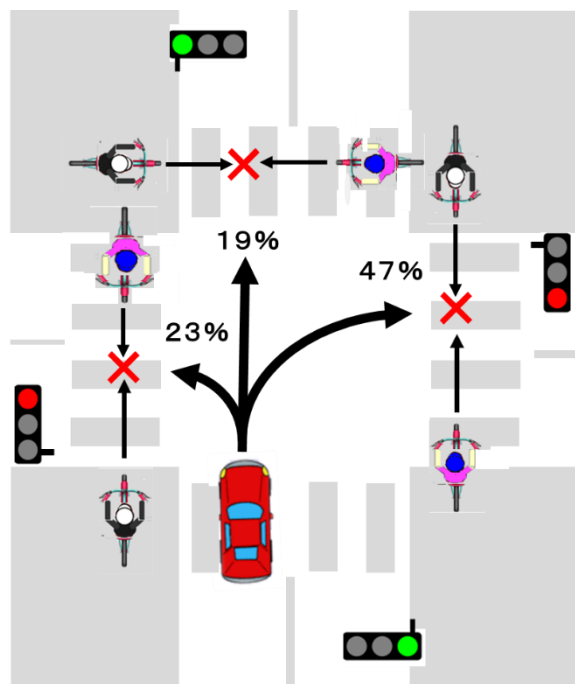
### ■ 四輪車対自転車の事故パターン (「交通安全ジャーナル」から)

少し古い資料で恐縮だが、(一財)東京都交通安全協会(当時は(財)東京都交通安全協会)が発行した「交通安全ジャーナル」2009年8月号から引用する。これは(公財)交通事故総合分析センター(当時は(財)交通事故総合分析センター)の資料に基づくものである。以下、本誌の挿図をもとに作成した図を用いて説明する。

#### ● 信号交差点では右折時に多い

信号機のある交差点での四輪車対自転車の事故の約半数は、四輪車が右折するときに発生している(右図)。

その理由は、以下によるものと思われる。



▲ 信号交差点での四輪車対自転車事故の割合

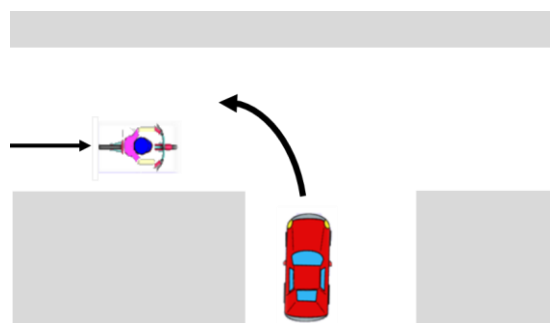
- ・ 四輪車は、信号や対向車に注意が奪われる。
- ・ 歩行者の間から突然現れる自転車は発見しづらい。
- ・ 自転車は、「青信号であるから、四輪車が自分に気付いている」という油断をする。

右折時に比べて直進時や左折時は割合が低くなっている。直進時は、自転車又は自動車のどちらかが信号無視をしない限り発生しない。また、左折時は右折時に比べて信号や対向車に注意が奪われることが少ないことが挙げられるが、巻き込みなど重大事故を引き起こすことが多いので、お互いに十分な安全確認をしなければならない。

● 信号機のない交差点での事故

四輪車が信号機のない交差点を左折又は右折する際、左側から進行してきた自転車と衝突する事故も多発している。

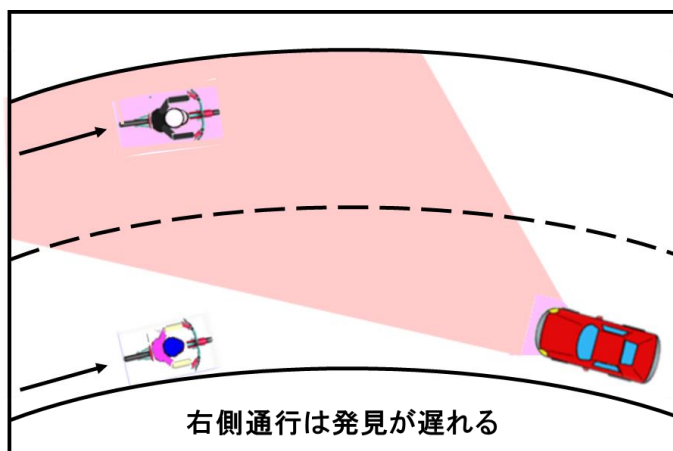
その理由は、四輪車が左折しようとするときは、基本的に右からの車両に注意すればいいと思いがちなので、左側への注意がおろそかになるからである。



● 右側通行をする自転車の危険性

右側通行をすると「3ヵ月以下の懲役又は5万円以下の罰金」が課せられる恐れがあるが、特にカーブしている道路や見通しの悪い交差点では危険が増加する。その理由は次のとおりである。

- ・ 四輪車から見て左カーブの場合、右側通行の自転車は左側通行の自転車に比べて発見が遅れる。
- ・ 見通しの悪い交差点の場合も右側通行の自転車は左側通行の自転車に比べて発見が遅れる。



おわりに

電動アシスト自転車によるデリバリーが今後増加すると思われるが、日頃から現場の状況に基づいた危険見積りをしっかりとやっておいてもらいたい。

以上

(文：村川、図：浅原)